TOPICS 3

トピックス…③

WDSで世界の酪農家が交流

本年 10 月 28 日から 11 月 1 日に横浜市で開催されたワールドデイリーサミット（WDS）2013 に参加した酪農家は、会期中の正式プログラムにとどまらず、正式プログラムにない企画でも積極的に国際交流の機会をもった。

ディナークルーズに世界から450名が参加

WDS2013 は、当初計画（850 名）を大きく上回り、世界 56 か国から 2,100 名余りの酪農関係者の参加により横浜市内のホテルで開催された。10 月 30 日夜に開催された「酪農家の集い」には、世界 28 か国の約 450 名（国内 250 名、海外 200 名）の酪農関係者が参加した。参加者は、日本唯一のエンターテイメント・レストラン船「ロイヤルウィング」に横浜港大さん橋から乗船し、19 時から 21 時の 2 時間にわたり、横浜の夜景を眺めながらのディナークルーズを楽しんだ。

国内酪農家代表として挨拶した砂金甚太郎・全酪連会長（中央酪農会議副会長）は、「22 年ぶりに日本で開催された WDS に、このように多くの海外の酪農関係者をお迎えすることが出来ました。この酪農家の集いでは、歓迎のアトラクションとして、伝統的な民俗行事である秋田の“なまはげ”や、400 年の歴史を誇る徳島の郷土芸能である“阿波踊り”の“おもてなし”を企画いたしました。どうぞ、東北地方の地酒とともに、横浜港の夜景を肴に楽しんで下さい。同じ酪農を営む者同士、地域を越えて、お互いの意見を尊重しつつ交流を深める機会となれば幸いです」と歓迎の言葉を述べた。また、2011 年に発生した東日本大震災について、「海外からも、多くのご支援と励ましを賜り、衷心からお礼を申し上げる次第です」と感謝の言葉を述べた。

続いて、酪農家で英国農業者連合のマンセル・レイモンド会長が、「多くの類似点を共有する世界の酪農乳業者が、課題解決に向けて協力すれば、必ず良い結果が得られる。酪農乳業界で恩恵に浴するために世界中の仲間が協力していければ、こんなに喜ばしいことはない」と挨拶した。

国際ネットワーク作りに向け５０名が参加

10 月 31 日早朝、国際的交流ネットワークの立ち上げを議論するための朝食会がヨコハマ・グランド・インターコンチネンタルホテルで開催され、世界の酪農家 50 名が参加した。この朝食会は、カナダと豪州の酪農団体の呼び掛けによるもので、来年イスラエルで開催される WDS2014 での同ネットワーク立ち上げに向け、カナダ、豪州、ドイツ、イスラエルの国際酪農連盟国内委員会の代表による作業部会で検討を始めることが確認された。

日本からは 6 名の酪農関係者が参加し、WDS2013 開催国の代表として挨拶した砂金甚太郎・全酪連会長は、「日本酪農は、TPP 交渉に代表される貿易自由化の問題に直面し、将来への経営不安が広がっており、リーダーとして難しいかじ取りを迫られております。今回の朝食会で、その立ち上げを議論する“世界の酪農家が交流する新たな組織”は、酪農を営む者同士が地域を超えて情報を交換し、相互理解と相互交流を促進することに繋がれば大きな意味があると考えます」と述べた。

ドイツとイギリスの酪農家が国内酪農視察を実施

ドイツ IDF の Folgart Udo 会長ほか 21 名のドイツ酪農関係者は、10 月 22 日から 24 日の 3 日間にわたり酪農視察のため北海道を訪問した。初日の 22 日は、サッポロビール庭園レストランでジンギスカン（ランチ）を楽しんだ後、恵庭市の福屋牧場で経営者と意見交換し、23 日は道南の景勝地である洞爺湖を望むレークヒルファームにおいて、経営者の案内で牧場と、併設されたレストラン・売店を見学した。24 日は江別市にある酪農学園大学の付属農場を訪問し、日本における酪農教育の現状を調査した。

イギリス酪農委員会の Mansel Raymond 会長ほか 6 名のイギリス酪農関係者は、栃木県を訪れ、10 月 22 日に那須高原クーラーステーションを見学した後、那須高原今牧場で経営者と意見交換した。23 日には、日光東照宮を参拝した後、矢板市の山本修牧場を視察し、24 日は東京にもどり、酪農政策や酪農をめぐる諸問題に関して、中央酪農会議と意見交換した。